

「de mano(じまあの)」は、牛豚肉を加工する「まあの」が発行するミニコミです。生産地の様子や生産者の声、「まあの」からのお知らせや小村の個人的な関心事などを掲載しています。

「mano」はスペイン語で「手」の意味です。生産と消費が「手」つなぐ肉流通を作り、「手」作業主体の職人の技術で肉を加工するという意を込めています。

まあのから
de mano
スペイン語で「mano」は「手」、
「de」は「～から」という前置詞です。

発行:まあの 【火曜定休】

兵庫県尼崎市戸ノ内町5丁目8-6

☎ 06-6495-2546

☎ 06-6495-2900

✉ mano0298@snow.plala.or.jp

HP <https://www.e-sora.net/mano/>

ゆうき倶楽部 まあの見学 7月25日

ゆうき倶楽部は、毎週お肉の注文をまとめて発注して下さるやおやグループの一員です。本庄さんの義父の良治さんの時代から、有美恵さんに引き継がれてもう30年以上のお付き合いになります。毎週直接引き取りに来られているのですが、今回は何にでも意欲的で関心の強い有美恵さんのご希望で、お肉のさばきを見ていただきました。お父さんの平田さんと二人で来られました。

平田さんも近くで自然食品店をはじめられたところだそうで、奈良で自然農をしておられたり、お肉をさばいていたこともあるとか、関心を持たれる領域が近いことを感じました。さばいている時にも「この一番短い包丁が一番切れたりするんです」と言うのと「そうそう、そういうことってありますね」と、包丁を使っている人らしい感想を言われていました。

・・・早速感想をいただきました・・・

驚きと感動の連続

ゆうき倶楽部 本庄 有美恵

今回、整形現場を見学させていただき、本当に驚きと感動の連続でした。

部位ごとに分けられた大きな塊肉は、見た目以上にずっしりと重たく、持ち上げるだけでも一苦労…。それを軽々と扱い、正確に美しく整え



ていく姿に、ただただ圧倒されました。私も父もとくに驚いたのは、まあのさんが70歳を越えていらっしゃるということ。その年齢とは思えない力強さ

に、本当にびっくりしました！

今まで私は、整形された状態で届いたお肉を何気なく受け取り、店頭に並べていましたが、その裏側には、これだけの手間と技術、そして想いが詰まっていたのだと、改めて気づかされました。これからはその背景も大切に、お客様へしっかりと伝えていきたいと思います。

本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



平田さんと有美恵さん

もう真夏が来てしまいました

希望農場・7月農場たより 清野光弘

今年は5月下旬から暑くなり、6月になると真夏のような天候になりました。さらに湿度も高く、汗をかいてもなかなか乾いてくれません。札幌では6月に30℃を超える暑さとなっています。厚真町でも連日25℃を超える暑さで、この暑さに体が対応できない状態です。日本列島はどこも暑さが厳しいようです。ニュースを見ると、ゲリラ豪雨がいろいろな場所で発生しているようです。北海道ではまだ



ゲリラ豪雨はありませんが、覚悟をしておいた方がよさそうです。

農家の方は、この暑さで葉物野菜がダメージを受けているようで、暑かった一昨年よりも厳しい状況と話しています。ただ、ここ最近はお米の価格も少し収まったようですが、北海道では稲の生育は順調のようです。

さて放牧豚たちですが、皮膚呼吸ができない分、口を大きく開けて体温調節をしています。ただそれだけでは収まらないようで、農場内の低いところに水をまき水たまりを作ると、みんな我先にとその水たまりに入って、体中に泥を付けて体温を下げています。日中は太陽の日が当たらないようにドーム型のテントの中に入り、暑さをしのいでいます。夕方気温が下がってくると餌を食べて、元気に農場内を走り回っています。

今年の夏はコロナも収まり、北海道内各地でイベントが行われて、数多くの人たちが楽しんでいます。出店では、浴衣を着た人たちがおいしい食べ物を買い歩きながら食べています。

今年も北海道は高温が予想されています。放牧豚たちの管理に最善の注意を払わなければなりません。皆様のところもこれから夏本番を迎えます。お体には十分気を付けてください。私たちも体調管理に気を付けて、おいしいお肉をお届けします。

山の記録

打見山(滋賀県大津市) 7月30日

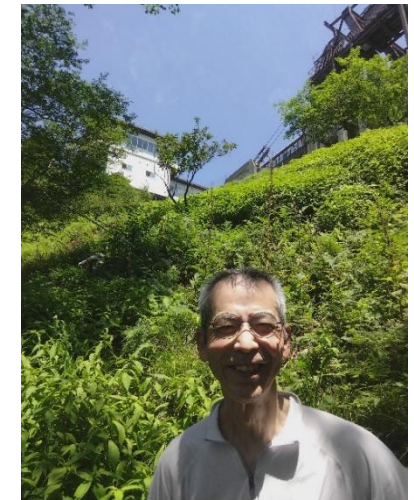
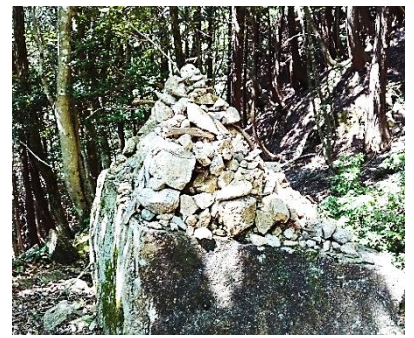
今回は久しぶりに比良山系、そして久しぶりに電車登山。JR 湖西線の志賀駅に着いたら8時過ぎです。すでに暑い。ヤマレコに設定しておいたのですが、スタートしてもくるくる回るばかりで反応しません。あきらめて歩いていきます。あれっ！ 見覚えのある道。鳥居をくぐって、信号の県道を渡って神社のわきを通る。バイパスの下のトンネルを通過して標識に従い左の山道へ。やっぱり来たことある。林の中を緩やかに登っていくと、まもなく登山口駐車場。やがて始まる石ころだらけのジグザグ道。地図通り延々と続きます。最初から足がだるく、どこまで歩けるか不安です。もう無理か、やめようかと思いました。みなさん飽きるんでしょう、ケルンをせっせ

と積んでいます。やがて上空が少し見えてきました。しかしまだまだ道は続きます。

3時間かかってやっと尾根に出ました。クロトノハゲでしょう。石灰岩の道です。ロープウェイの音がして、頭上を上っていきました。山上駅です。

(→) 打見山はどこ？ ヤマレコが動いていればすぐ先だと分かったのかもしれませんが、もう身も心も折れて、戻ることになります。いやあ、標高差1100mはさすがにきつかった。昔、やはり頂上直前で戻ってしまったのが、和歌山の鏡石山。直前の広場に大岩があり案内板もあったので、勝手に頂上と思い込み戻ってしまったのでした。

下りはピストンです。何度も太もも、^{こも}腓とつりまですが、経口補水液1ℓ、お茶1ℓでありひどいことにはならず、何とか歩き通せて、1時25分に志賀駅まで戻ってきました。久しぶりの3万歩越えです。



ロープウェイの先に琵琶湖を望む

ニクヤノツブヤキ

- ◇ 青木さんから「今いる牛で来年いっぱい足りませんが、次導入しますか？」さあ具体的に決めていかないといけない。いつまで続けられるか。(幸治)
- ◇ 北九州から半年ぶりで帰省して来て出会った6歳の孫は写真で見るのと比べ物にならないくらい可愛かった(〇〇)です。大阪のおばあちゃんバカの巻でした。(幸子)